

第 708 回 例 会

29年2月10日

本日のプログラム

- ・ソング 「われら日本ロータリアンの歌」
- ・卓話 大谷 定子 会員 「あなたもワイン通」
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」

次回(2月17日)のプログラム

- ・ソング 「われら日本ロータリアンの歌」
- ・卓話 福島 三雄 会員
- ・場所 ANAクラウンプラザホテル大阪 5階「ガーデンルーム」

先週(2月3日)の例会報告

■会長の時間

皆さんこんにちは。このあいだお正月だったと思ったらアツという間に2月になりました。2月もご存知のように28日しかありませんので言っているうちに3月になって・・・私の会長年度も先が見えてきました。本日は2月3日「節分」です。読んで字のごとく「季節を分ける」ということで明日が「立春」、暦の上ではもう春になります。といってもまだまだ寒いですが徐々に三寒四温で春に向かっていくわけですが、私にとっては大変つらいシーズンを迎えることとなります。そう花粉のシーズンですね、これからは少しお見苦しくなるかもしれませんがお許してください。

さて本日は先ほど来客紹介させていただきましたように、地区から2018-19年度代表幹事予定者の宮里様と地区幹事の皆さまがお越しいただいています。2018-19年度といえば川上さんがガバナー補佐に就任される年ですね。当クラブもいろいろとお世話になりますので、こちらこそどうかよろしくお願ひします。ところで皆さん「地区幹事」という仕事のことってご存知でしたか？ 恥ずかしい話ですが私はあまり理解できていなかったものでちょっと勉強しました。地区と言えばガバナーとガバナー補佐、そして様々な地区委員会とイメージはできるのですが、地区幹事という職はあまりなじみがなかったというのが正直なところ。ロータリー情報マニュアルでは「地区会合の準備、適切な書簡処理、諸地区会合の議事録の編集、諸種の記録保存等の日常の管理事務の面でガバナーを補佐」と書かれていました。少し説明が細かいように思えますが、言ってみれば地区の運営全般を担っているということでしょうか。そう考えてみるとクラブの「会長に対する幹事」と同様に、「ガバナーに対する地区幹事」と考えると理解がしやすいですね。2660地区には代表幹事を筆頭に副代表幹事が2名ガバナー月信担当として14名おられます。ガバナー月信の作成がいかにか大変か伝わってきます。昨日メールにて皆さまのお手元にガバナー月信2月号が届いていると思いますのでぜひご一読ください。各クラブと直接かわかることは少ないかもしれませんが、これを機会に地区幹事の皆様のおかげで地区の様々な業務がきちんと動いているということを理解しておきたいと思ひます。

【来客紹介】 4名

【出席報告】

29年2月3日(第707回例会)				
会員総数	出席免除会員	出席会員	欠席会員	出席率
34名	1名	24名	9名	72.73%

【幹事報告】

[メールBOXに配布]

- 1)ロータリーの友(2月号) 2)ロータリー財団より寄付金領収証 3)米山記念奨学会より寄付金領収証とリーフレット
4)USJ例会(李くん歓送会)のご案内 5)家族例会のご案内

[メール送信] 1)例会変更のお知らせ ⇒ 1/27 配信 2)ガバナー月信(2月号) ⇒ 2/2 配信

[回覧資料] 1)出欠回覧表(クラブ協議会・USJ例会・家族例会)

ニコニコ箱(2月3日)

林 健一(川西猪名川RC)＝お世話になります。

秋山 千尋 ＝先日の戦略計画委員会の資料ありがとうございました。非常に参考になりました。

橋本 勉 ＝2月最初の例会です。私もバースディマンスで頑張ります。高野さん、卓話を楽しみにしております。

小林 知義 ＝今日は節分です。新地に出ようと思っているのですが、どんなオバケに会えるか楽しみです。

久保田秀一 ＝まだ寒いですね。早く春になってほしいです。

中根三恵子 ＝たくさんのお客様にお越し頂きまして、有難うございます。

高野さん、卓話のやりがいがありますね。私、所用につき見守れませんが、頑張ってください。

森本 良嗣 ＝高野さん、卓話当番がんばってください。楽しみにしております。

大屋 準一 ＝寒い日が続いています。

トランプさん、世界を大きく見てや！！ ロータリー発祥の国、しっかりしてや！！ よろしく頼みますね。

斎藤 清貴 =高野さん、卓話よろしくお願いします。

鈴木 正明 =寒いです。

高野 幸雄 =節分ですね。朝から恵方巻き食べて来ました。久しぶりの卓話です。ネタ切れですが、がんばります。

吉田 正信 =先週と同じですが、どちらさまも本年もよろしくお願いします。

【SAA報告】	ニコニコ箱	本日計 12000円	今年度合計 3965455円
---------	-------	------------	----------------

卓話(2月3日)

「おもしろい古事記」 高野 幸雄 会員

・古事記は第40代天武天皇(～686)の命により編纂開始、太安万侶によって和銅5年(712)に第43代元明天皇(661～721)に献上された。天皇一族が日本を統治する正当性を明示し天照大御神を頂点とする神々からの系譜を公的に記録しようとしたのが目的か・不都合な事は記載されないだろう。

全体の1/3が神話であり物語性が強い。(国内向け)

・比較に上がる「日本書紀」も、天武天皇が編纂を命じ皇子である舎人親王(676～735)らによって養老4年(720)に完成。

神話の割合は少なく、歴代天皇の事績の記述に重点、歴史書としての性格が強い。(外国向け)

(中略)

アマテラスは卑弥呼？(ヒミコ=ヒルメ？)

天文学者の研究では、西暦247年～248年に二度皆既日食が起きたとされているが、「魏志倭人伝」によると「247年に倭の邪馬台国と狗奴国との間で戦争が起こり、その戦乱のあとに卑弥呼が死んだ。」とある。一部の考古学者によると、有名な「天の石屋戸隠れ」という神話を これらに照らし合わせて考えている。つまり、アマテラス(卑弥呼)は、戦乱の後に 重ねて起こった不吉事である皆既日食(当時は太陽の光が欠けてしまうという壮絶な恐怖)に際し、天の石屋に籠り、呪術や祈祷でこれを回復しようとしたが叶わず、力尽きて死んでしまったというのである。又、日蝕を回復できない女王は威厳を失い民衆に殺されたという説もある。ちなみに平安期には日蝕や月蝕の際には天皇が御所に籠るという風習が見られた。また「万葉集」では「石屋戸に隠れる」という表現は貴人の死を意味するという解釈がある。特に注目されているのは247年3月24日に北九州で観測されたであろう皆既のまま日没を迎えた日蝕である。午後3時頃から太陽が欠け始め、そのまま夜になってしまった事を想像すると、このまま太陽が消え去るのではないかという民衆の恐怖は容易に想像できる。

アマテラスは肉食女子？

現代では神棚に捧げる神饌は、米や酒、野菜、魚、海藻等の海産物とするのが通常で、動物の肉を供えるのはあまり見られないが、これは要するに牧畜はなく稲作を受け入れた農耕民族としての日本人の文化館・宗教観が色濃く反映されているのではなからうか。ところが記紀を読んでも、古代の天皇たちが必ずしも肉食をタブーとしていなかったことが解る。例えば、初代神武天皇は、即位する以前、九州から都にふさわしい土地を求めて東方に向かった(神武東征)その際、大和の土豪の弟猾が「牛酒」を捧げて労ったという。「牛酒」とは牛肉と酒のことである。ちなみに古代人は肉より内臓を好んで食べたとされている。アマテラスの時代には皮をはがれた馬を神に捧げる儀式があったと推測する学者がいるが、当然神とはアマテラスを含んでいたのでは なからうか？

参考書籍:「本当は怖い古事記」古銀剛著 「眠れないほど面白い古事記」由良弥生著

次回は、アマテラスの弟神 謎の神「ツクヨミノミコト」 邪神「スサノオのミコト」について紹介したいと思います。

大阪ユニバーサルシティRC URL: <http://www.osaka-ucrc.org/> E-mai: ucrc@osaka-ucrc.org 創立: 2001年3月27日
事務局 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 リーガロイヤルホテル401号室 TEL: 070-5020-6459
会長: 斎藤清貴 幹事: 三宅一郎 会報担当: 大橋高志 例会: 毎週 月曜日12:30～13:30 リーガロイヤルホテル

4つのテスト / 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか